

視聴覚教育

NO 162

発行日
2. 5. 25発行
岡崎市AVL

編集

広報委員会

メディア特性を生かそう

現職教育委員会視聴覚部長 加藤 憲 尚

「ニューメディア」ということばが広く使われるようになってから十年近くになる。すでに広く普及しはじめているメディアもあれば、キャプテンシステムのようにまだこれから普及して行くと思われるメディアも多々ある。いずれにせよ近い将来、多メディア時代が到来することは確実である。

多メディア時代は、とりもなおさず高度情報化社会である。これからは、その情報化社会の変化に主体的に対応できる能力を持った子どもを育成して行かなければならない。

さて、新しい視聴覚メディアが登場して来ると従来から伝統的に使われて来たメディアがとかく軽視されがちになることは困ったことである。新しいものがすべて良

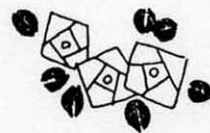
いとは言い切れない。例えば、ブラウン管を通して提示する教材提示機が出たからといってOHPはもう古いと考えるのは早計である。OHPの特性と教材提示機の特性をそれぞれ検討すれば、同一視できないことに気づくはずである。

コンピュータの導入も中学校を中心に着々と進行している。新教育課程の実施をひかえ、コンピュータに対する関心は一段と強まっている。それだけにコンピュータに関する研究にも熱が入って来た。

今後、積極的に研究を進めて行かなければならない分野であるが、コンピュータとして万能ではない。コンピュータでは、個々の生徒の理解度に応じて主体的に学習を展開するのには適切であるが、表現の豊かさ、理解のしやすさでは放送やスライドには及ばない。

このように、個々の視聴覚メディアには、それぞれの特性があるはずである。その特性を熟知することが何より必要である。そのうえで、各メディアを学習指導上どう生かすかを考えるべきである。単一メディアだけの場合もあるが、複合メディアの場合、さらにはシステムとして利用する場合も出てこよう。形態はどうであれ、基本は各メディアの特性を最大限に生かして学習効果を高めることにある。

メディアが、新しいか古いかの問題としてではなく、学習効果が高いか低いかの問題でとらえられるようにして行きたいものである。



研究方針・組織決まる

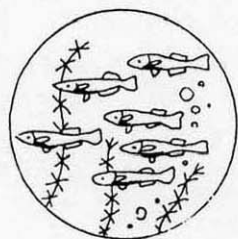
今年度の研究主題

視聴覚教材・機材を生かした

授業のあり方を追究しよう

研究の重点

- (1) 授業で生かせる自作視聴覚教材の制作とその活用
- (2) 学習効果を高める放送学習の実践
- (3) 視聴覚教室やアナライザー教室の総合的な活用
- (4) 校内放送の充実と双方向システム活用法の研究
- (5) パソコン機能の理解とその活用法の研究



部 長 加藤 憲尚(井田小長)
 部 長 高橋 岩雄(常磐南小長)
 部 長 大須賀明彦(南中長)

指導員 高木 和広

運営委員

世話係 山田 賛平(竜南中) 原田 平(六 中)
 小栗 正貴(北 中) 寛 美鈴(藤川小)
 萩原 寛(六中小) 内藤 法雄(矢南小)
 加藤 尚(緑丘小) 羽根 一夫(美川中)
 ライブラリー職員 杉浦 修(甲山中)

山内 薫
岸 明信

八田 敏公(連尺小)
 内田 義和(新香山中)
 鈴木 淳二(細川小)
 名倉 嘉章(上地小)

ライブラリーだより

各種大会・研究会のお知らせ

- 愛知県放送教育特別研究会 8月8日 豊田市
- 全国放送教育特別研究協議会 7月30日～8月1日 東京
- 全国視聴覚教育研究大会 10月18日・19日 大分市
- 東海北陸地方放送教育研究会 10月25日・26日 富山県上市町
- 学校視聴覚教育全国大会 11月6日・7日 名古屋市
- 放送教育研究会全国大会 11月8日・9日 東京

16ミリ映画の配達・回収

ライブラリーでは、16ミリ映画の配達・回収サービスを行っています。毎週火曜日に、小中学校や市民センター等へ配達し、翌週の月曜日には回収にうかがいます。「視聴覚教材・機材目録」でフィルムを選び、必ず電話で予約してください。

ビデオのダビング

ライブラリー等で制作した自作ビデオのダビングを行っています。ビデオテープの背に番組名・所属を書いて送ってください。なお、原則として一番組一本のテープにしてください。

人事異動

今回の異動で、宮田典彦主査が社会教育課社教係へ、それに代って市民課より岸明信事務員が入りました。よろしくお願いいたします。